

議 会 だ よ り

24号

2025年(令和7年)
1月15日



迎春

無病息災を願って



山田河内区獅子舞お囃子保存会



小松原獅子舞保存会

第2回臨時会	2ページ
第4回定例会	2～3ページ
令和7年度村政への提言	4～5ページ
一般質問	6～8ページ
飯伊市町村議員研修会	8ページ
中学校 村づくり意見発表会	9ページ

新そば食べまい会	10ページ
商工懇談会	10ページ
火沢地区埋立工事進捗状況	11ページ
戦没者・公務殉職者追悼式	11ページ
議長コラム・編集後記	12ページ

第2回 下條村議会臨時会

令和6年11月5日

大久保地区村道防災対策工事請負契約の締結などを審議するため、11月5日に招集し、1日間の会期で行い、審議の結果可決しました。

▼工事請負契約の締結

令和6年度 債務負

担行為大久保地区村道139号線村単道路防災対策工事請負契約の締結について

本年4月10日、大久保地区村道139号線の谷側法面が幅約48mにわたる崩落、また山側法面にも地滑りの兆候がみられることから、これ以上の崩落を防止するため防災対策工事を実施するもので、工事は、延長48m、上部法面には、切土工、簡易法枠工、下部法面には、抑止アンカー工及びコンクリート吹き付け工の施工を行う。

10月29日に指名競争入札を行った結果、株式会社パテックと5,885万円で同日仮契約を締結した。

工期は令和7年9月30日までで、審議の結果可決しました。

▼補正予算(専決処分)

○令和6年度一般会計(第4号補正)(専決処分)

《5,300万円の減額》
総額3億700万円に

【歳入の主なもの】

国庫委託金として379万1千円増額、村債として5,600万円の減額。

【歳出の主なもの】

10月27日に執行されました衆議院総選挙に関する執行経費の予算計上が必要のため、391万6千円増額。

3号補正で大久保地籍村道139号線の道路防災対策事業費の増額を決定したが、工事実施内容を精査したところ年度内の完了が見込めないた

め、一部債務負担行為として事業実施期間を翌年度までとすることから、本年度の関連事業費を委託料・工事請負費合わせて5,624万円減額するもの。審議の結果、承認しました。



第4回 下條村議会定例会

- 加竜川村単河川改修工事やリニア発生土埋め立て計画地の用地買収などの増とする補正予算(第5号)可決。
- 下條村選挙管理委員会の委員及び同補充員の選出
- 「下條村職員の特殊勤務手当に関する条例」、「下條村議会の個人情報に関する条例」など、条例の一部改正6件を可決。

会期12月5日から12月12日まで

令和6年第4回定例議会は、12月5日に招集され、12日までの8日間の会期で行われました。
条例の改正が6件、補正予算1件、協定の締結が1件、人事の同意1件が提出され審議の結果議題のすべてを可決し閉会しました。

▼一般質問は、議員5名より

初日に行われた一般質問はP6以降に詳細が掲載されています。

▼条例の一部改正

○下條村職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について

・時間外勤務について上限を設けていたため、不規則勤務となる公民館主事の手当を加えていたが、時間外手当の上限撤廃したことで重複となる手当を省

くもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○下條村議会の個人情報
の保護に関する条例
の一部を改正する条例
について

○下條村情報公開・個人
情報保護審査会条例
の一部を改正する条例
について

○一般職の職員の給与
に関する条例の一部を
改正する条例について

○下條村公共物管理条
例の一部を改正する条
例について

○下條村非常勤消防団
員に係る退職報奨金の
支給に関する条例の一
部を改正する条例につ
いて

・右記条例は、刑法等
の一部を改正する法律
が令和4年6月17日に
成立し、令和7年6月
1日に施行されること
に伴う改正で、自由刑
のうち懲役及び禁錮が
廃止され、拘禁刑に一
本化されることに伴
い、刑法等の一部を改
正する法律の施行に伴

う関係法律の整理等に
関する法律により、条
例で定めることのでき
る罰則について改正が
必要となることから条
例の一部改正を行うも
ので、審議の結果、原
案どおり可決しまし
た。

▼補正予算

○一般会計(第5号補正)
《5,800万円を増額》
総額32億6,500万円に

【歳入の主なもの】

地方交付税に3,
848万4千円、保育
所運営費及び障害者
自立支援給付費の国
庫負担金278万9千
円、国庫同様に県負担
金105万8千円、緊
急自然災害防止対策事
業債1,000万円など
を増額。

【歳出の主なもの】

リニア発生土埋め
立て計画地の用地買
収経費927万8千
円、広域入所利用者
増に伴う保育委託料
518万6千円、帯
状疱疹ワクチン接種補

助の増などで102万
円、加竜川村単河川改
修工事経費1,038万
円、村営住宅改築工事
費550万円などを計
上。事前にその内容の
詳細を各課課長より説
明を受けたうえで、慎
重審議を経て、原案ど
おり可決しました。

【一部を変更する協定の
締結】

飯田市との間において
締結した定住自立圏形
成協定の一部を変更する
協定の締結

平成21年7月に南信
州圏域内13町村と飯
田市との間において締
結した定住自立圏形成
協定に、広域的な消費
生活センター運営事業
の実施を追加するもの。
これは、県が消費生活
センターを集約すること
に伴い、飯田消費生活
センターが令和7年4月
に閉鎖となるため、圏
域住民の消費生活の安
定及び向上を確保する
ため、協定の一部を改
正するもので、原案ど
おり可決した。

【人事案件】

○下條村選挙管理委員
会委員及び同補充員の
選挙について

12月23日をもって4
年間の任期満了となる
下條村選挙管理委員会
委員及び同補充員の選
挙について行い、選挙
管理委員会委員への立
候補者がいないことか
ら議会の推薦により選
出を行いました。

その結果、選挙管理
委員会委員には第1投
票区は河上光男氏(大
久保)、第2投票区は
久保田美與氏(山二)、
第3投票区は古田勝氏
(北平)、第4投票区は
古田淳二氏(上野原)
を推薦、また同補充員
には、中島健喜氏(手
塚原)、飯嶋和実氏(明
地原)、市瀬眞弓氏(西
部)、石崎恵理氏(阿
知原)をそれぞれ推薦
し、同意しました。



令和7年度 村政への提言

令和7年度の予算編成に向けて、金田村長に対し議会からの提言を行います。

下條村議会は、村民の負託と期待に応えられる活発で魅力ある議会を目指して研鑽を積み、質問や提案がしっかりとできる議会づくりに取り組んでいます。

令和7年度予算に対する提言については、議員と村民との対話や議会審議の中で浮かび上がった課題を、各常任委員会において慎重に協議し、議会の総意としての提言を下記のとおりまとめました。

下條村が、未来に希望を持てる持続可能な村としてさらなる発展を続けるために、村民の声を反映した重点的な予算配分がなされるよう要望するとともに、村の資源と財産を有効に活用し、さらにと輝く村づくりのため、村政に手腕を発揮することを期待します。

本提言が議会の総意によってまとめられたことをしっかりと受け止められ、予算編成に反映されるよう強く要望いたします。



1. 物価高騰対策支援について

(1) 原油価格高騰・物価高騰に対して、きめ細かい対策を講じるとともに、地域経済活性化の推進

2. 移住定住施策について

(1) 村の魅力の情報発信のさらなる充実と人を呼び込む交流イベントの開催および支援強化

(2) 移住定住促進を目的とした住宅および住宅用地の確保、定住促進住宅の新築と土地取得に対する年齢制限の引上げおよび補助金の上限の見直し、移住奨励支度金の年齢及び地域制限の削除、空き家リ

フォーラム等補助事業の継続、村営住宅の計画的な施設整備

(3) ダーチャ事業による関係人口拡大のための事業の推進

3 公共施設整備について

(1) 村内公共施設の老朽化に備えた、優先順位を考慮した年度計画に基づく整備の推進

(2) いきいきらんど下條の修繕計画の抜本的な見直しによる効果的な施設改修

(3) 公共サインの整備と観光地展望サインの新設・リニューアルの推進

4 産業振興について

(1) NPO法人「元気

だ下條」を活用した遊休農地解消の取組強化と農業収入の向上に繋がる事業の推進

(2) 商工業の担い手確保と地産地消の推進による商工業者への支援拡充

(3) 農業の持続的な発展に向けた担い手の育成、認定農業者の確保のための支援拡充

(4) 村内農作物の高品質化と生産所得向上のための支援拡充と新たな特産品の開発

(5) ふるさと納税返礼品の更なる拡充による特産品の知名度向上の推進

(6) そばの城のリニューアルの早期実現により、村内農産物の販売場所の開設、販売イベントの開催などの地産地消を促す事業の推進

5 防災減災対策について

(7) コスモスの湯の利用者拡大のための施設建替えの検討

(1) 防災減災対策や利便性向上を目的とした、優先順位を考慮した年度計画に基づく道路および河川、法面、橋梁の整備推進

(2) 住宅地や農地における急傾斜地など、災害危険区域に対する防災減災対策の強化

(3) 大規模災害に備えた防災マップ活用・S-NAVIによる防災教育と訓練、防災のための人材育成と活用

(4) 消防力の維持と強化のための消防団員の

確保

(5) 自主防災活動の持続、学校と連携した防災フェスの開催による住民の防災意識の向上

6 福祉健康施策について

(1) 健康増進の更なる推進を目的とした特定健診等の受診率向上、糖尿病教室などによる健康指導の強化、いきいきらんどリハビリプール等の健康効果の周知による活用促進

(2) 地域コミュニティの活性化のための、地域サロン等の育成に対する支援強化

(3) 子育て、障がい、引きこもり、貧困等生活困難者への相談支援の充実

7 文化教育施策について

(1) 村の文化遺産の計画的な整理保全と保存施設の建設と整備、および教育的活用への推進

(2) 戦没者・公務殉職者追悼式の意義を踏まえた、青少年を含む一般村民の参加や講演会実施など式典内容の見直し

8 学校教育施策について

(1) 若者のUターンに繋げるための村内企業等でのキャリア教育、歴史文化・伝統芸能などの郷土教育の充実強化により村の魅力や特色を活かした学校づくりの推進

9 議員のなり手不足について

(2) 不登校児童・生徒に対する支援体制の充実

(3) 子どもの意見を活かした村づくり・学校づくりの推進

(4) 通学路の安全確保と歩道の整備

(1) 議員のなり手となる多様な人材を確保するために、現在の低額な議員報酬月額を大幅な見直しを図る



課題となった道の駅下條の改革および CSV開発機構委託事業の進捗について

Q 村はショッピングひさわの廃業に伴い、村民の意向を踏まえ、新たな事業者の発掘、それに伴う、道の駅下條のあり方など検討を進めてきた。また、今年度、一般社団法人 CSV開発機構委託による道の駅周辺の整備、開発に関わる事業構想を提起している。
村民の生活物資の買い物は、利便性が優先される課題であり、それを念頭に置いた道の駅下條の改革と、CSV開発機構委託による今年度事業の進捗について聞く。

A 3月末、JR東海がリニア開業時期を2034年以降に変更し、そのため当村の発生土埋め立て工事の完了は2030年以降が見込まれ、時間的余裕が出た。そばの城については、社長の就任に伴い、新社長・専務を加えたプロジェクトチームによる施設の大規模改修、機能強化を再検討し、基本計画に反映する。2026年度中には計画審議、その後実施計画を策定したい。従って今年度はCSV開発機構との業務委託は見送る。CSVとは昨年12月、リニア発生土置場利用計画サウンディング事業等業務委託契約を締結している。



塩沢道雄 議員

土砂災害(特別)警戒区域内における新たな構造物の建設の制限などを定めた条例の制定について

Q 村内には多くの土石流および急傾斜地特別警戒区域があり、該当する地域は被災リスクが相当に高い。生命、財産の被害を軽減するため、被災に備え、土砂災害(特別)警戒区域内における制限を定めた条例の制定が必要と思う。

A 村内は多くの個所が警戒区域に指定され、急傾斜地262箇所、土石流で16箇所ある。こうした区域での建設規制や制限行為は、例えば急傾斜地災害防止法などの個別法が規定されている。現時点ではこうした法令により対処し、条例は不要と考える。今後必要なこととして、規制外の場合も含め、業者には警戒区域内物件について、入念な重要事項説明を求め、一方、土地購入など補助金申請においては、地域等の確認、説明の上で取り組みに当たる。当村は広範な警戒区域を持ち、何らかの規制を設けることの適否は慎重な議論が必要と考える。

観光資源としての下條山脈の活用について 村の経済活性化につながる観光施策を

Q 観光関連産業は、宿泊・飲食サービス業や農業・小売業など裾野が広く、村内消費にも直結する。村の経済活性化のためにも観光施策に注力すべきでは？

A 村には多くの観光資源があるが、産業として成り立っている事業は少なく、村としても長いあいだ力を入れてこなかった分野と認識している。宿泊・飲食サービス業や商業・農業の振興や雇用の創出に繋がるよう、観光を産業として推進を図ることが極めて重要と考えている。

Q 村のシンボルでもある下條山脈の自然景観や歴史文化の資源を最大限に活かした、登山ルート整備や観光プログラム開発を行い観光商品として発信することが重要では？

A 南信州の広域観光推進のためにも、下條山脈は大きな資源であり活用に取り組んでいきたい。現在、そばの城とリニア残土埋立地を観光資源の玄関口としてとらえ、波及していく中に下條山脈を考えている。

[提案] 村民参加による下條山脈の登山道整備イベントを

Q 村民の交流や健康づくり、下條村や周辺の自然・歴史文化の学習の機会として、下條山脈の登山道整備を兼ねたトレッキングのイベントを提案したい。

A 観光を産業として捉えるためには、村の人達や南信州地域の方々が日常トレッキング等で利用されるようにしていくことが大事と考えている。提案の内容を加味しながら次年度の当初予算計上に向け検討したい。



福沢 敏 議員

住宅耐震化の促進について

Q 近い将来の発生確率が高くなっている南海トラフ巨大地震や伊那谷断層直下地震で命を守る対策の大前提は住宅の耐震化が重要と思うが未耐震住宅の耐震化の進捗状況はどの様か。

A 村内における本年度の耐震改修の実績は耐震診断1件、改修実績は無く未耐震住宅の耐震化は進んでいない。

Q 下條村耐震改修促進計画では7年度末の耐震化率90%が目標値であるが対象となる住宅の耐震化を今後どの様に押し進めるか。

A 住宅耐震改修事業は耐震診断士による診断を受け改修工事へと進むが耐震改修の補助対象工事は改修後の評点(耐震性能)が0.7以上になる工事が対象となる。実際に改修する際は事業費の5分の4、限度額150万円が助成されるが建物の規模により多額の改修費が必要となり耐震改修は進んでいない。耐震化率を向上させる為の有効な方法等、村独自の助成制度の創設も含め検討している。現段階は耐震診断、耐震改修補助制度を周知して、なるべく多くの方に耐震診断及び改修を実施してもらえよう依頼をしていく。



田中兼次 議員

一般質問(12月)

不登校児童生徒の教育の在り方について



宮嶋成子 議員

Q 村長は11月8日にB&G財団子ども第3の居場所サミットのパネル討論に参加し下條村の取り組みを発表された。そのことから不登校児童生徒への教育についてお考えをお聞きしたい。

A サミットでは、南丹市長から子ども施策の庁内組織の一本化や連絡などのICT活用、白馬村長から専門医へのオンライン相談や行政手続きのICT化の事例発表があった。私からは不登校児童生徒映画祭について発表し、多様な居場所づくりについて反響があった。居場所は若者が決めるもの、居場所づくりは第3者が中心となって行われるものの理念から「子ども第3の居場所」施設がよりよい居場所になるようにしていかなければと感じている。

下條村のカーボンニュートラル実現について

Q 2050年カーボンニュートラル実現に向け、2026年温室効果ガス排出量取引制度の大企業義務化が始まり、これを機にCo2吸収効果の高い森林の価値(収益化)が上がると思われる。計画的な森林整備は災害や鳥獣害予防、観光や体験など交流も期待でき住民利益もある。取引可能な森林づくりを始めるよう提案する。

A 村が主となり実施している森林整備に係る事業は森林経営管理制度にかかる事業で、山林所有者の意向調査を随時実施中、既に所有者44名の回答があり集積計画を作成しているところである。カーボンニュートラルの実現のための森林活用は実施する予定はない。

物価高騰による村の対応・対策について

Q 世界的なコロナ禍からの回復で原材料や物流の価格が上昇し、2022年2月には「ロシアのウクライナ侵攻」が重なりエネルギー・穀物といった原材料がさらに高騰しています。世界経済の動向やエネルギー価格の変動などの影響で不確実な状況、また食品価格は原材料費や人件費の上昇を背景に長期的な上昇傾向が今日も続いています。多種多様に使用する燃料類、また食品全般も上昇しており村民の生活に直結する重大な問題です。村も物価対策支援として対策対応を村民、村内事業所等に行ってきましたが今後の対策対応はどのように考えているか、また既に対応計画等があるかをお聞きしたい。



熊谷利治 議員

A 現下の物価の上昇は2021年（令和3年）後半から始まったといわれています。下條村ではこうした経過の中、国や県の支援施策を活用するとともに、村単での補助施策も実施してきました。2020年（令和2年）に発生した新型コロナウイルス感染症対策の事業、住民支援、事業者支援等を展開してきました。令和4年度は事業者支援、住民支援として物価高騰対策の決算額で計41,711千円。令和5年度はマイナンバーカード普及経済対策商品券、プレミアム商品券の発行等など計133,617千円。令和6年度は予算措置でプレミアム商品券、生活応援商品券発行等など計14,200千円。現状、国・県の施策で担保されない部分について必要な場合は、村としても支援策を検討し、今後の動向を十分注視するとともに、急激な物価高騰による支援が必要と判断した場合は早急に対応したいと考えています。

一般質問(12月)

飯伊市町村議員研修会

(10月31日)

「災害で死なないための環境作りを」

(防災アドバイザー 高荷智也氏の講演から)

講演のタイトルからして「メディアで言えない防災対策」とセンセーショナルな幕開けでした。「究極の防災対策は引越しです」そんなこと言われても！と思いつつも納得する攻めです。100年後の日本人をどこに住ませたいかー防災は土地選びから考えるー安全な場所に町を作り直すという話に、今年元旦から大災害に立て続けに襲われた能登の地の人々に思いを馳せました。

日本の国土は、地球の陸地の0.25%の広さ、そこへ地球の火山の7.4%が集まる火山国。上陸する台風は9.7%、そして地球の大地震の13.7%が起きている超地震国。世界有数の豪雪国でもあり、災害大国であることが改めて自覚されました。

国内では直近1年間で、震度1以上の地震が2千22回、1日平均6.1回起きています。地震の確率が低いと見込まれていた場所でも発生していることから、日本ではいつどこでも起きる恐れがある、いつ自分の番が来てもおかしくない」と話されました。

南海トラフ地震防災対策推進地域に指定され、伊那谷断層帯も走る当地域では、耐震強化をすることが必要だと痛感しました。耐震等級3

(2千年基準等級1の1.5倍)の住宅を選択、室内の安全対策として家具の固定、直接ネジ固定が最良だが、粘着器具や突っ張り器具も効果ありとのこと。また、公営住宅でも退去の時原状回復義務を免除する自治体もあるそうです。村の住宅にも取り入れるといい提言だと思いました。国交省の重ねるハザードマップは、津波、高潮、洪水、土砂災害の情報をまとめて取得できると紹介がありました。まずは村で作成したマップを見て、危険箇所を確認し災害時に安全に速やかに避難できるようにすることと言われました。

正しい防災対策とは？に話が及んだ時、防災グッズをそろえたり、保険に入ったりの前に「自宅を頑丈にする」「自分と家族の命を守る、死なないための環境作り」を声高に語られました。防災対策では生き延びた被災者の声も重要だが、「犠牲になつた死者の声」こそ参考にすべきと語られたことが印象的でした。

超巨大な災害が国に起こった時のために、国の食糧はどう備蓄しておけばいいのか、電力は原子力に頼つていいのかなど、課題の大きさに気づかせてもらいました。

外出中、一日一回は災害時のイメージトレーニングをという講師の一言も重いものでした。(丸山 浩子)

中学3年生による村づくり意見発表会
よりよい下條村の未来のために
中学生の提案を拝聴しました



去る11月15日午後2時30分から、コスモホール大ホールにて開催され、村長はじめ村の職員、村民の皆様と共に、議員一同も参加しました。

中学3年生は、総合的な学習として下條村のよりよい未来のために中学生ならではの視点で村への提案を行うグループ学習を行っており、1学期の「意見交流会」を経て、その時に出た大人の意見も参考に、さらに学習をすすめ、この度集大成が発表されました。

中学生が挙げたテーマは5つ、全部で16の提案がされました。

内容は以下の表にまとめました。驚きましたのは、私たち大人も感じている深刻な村の課題をしっかりと理解し、対策と共に素直な意見・提案を表現されたことです。

人口減少は子育てしやすい村にすることで改善するのではないか。村の自立とにぎわい存続のためにはスーパー建設は必要不可欠。空き家や孤独の問題、防災のための行動、温泉や商業施設のにぎわい、リニア時代に向けての準備など、どれも身近で喫緊を要する意見ばかり。困難は承知の上で敢えて提案するといった姿もあり、心強さとする大人ががんばれと言われているように背筋が伸びました。

大ホールの舞台上にパワポを写し脇で発表する姿も堂々としており、また質疑では会場の大人から活発な意見や感想が出ました。

中学生と共に未来に思いをはせる機会をいただきましたことに感謝いたしますとともに、このご意見を必ず今後に生かし、よりよい村づくりを行っていきたいと思います。(宮嶋 成子)

提案理由・動機	提案内容
人口グループ (7名)	
下條村の人口は20年後2026人になるとの人口推移を受け、人口を増やすための対策。未来の下條村が子育てしやすい村になるように	<ul style="list-style-type: none"> ①子育てする親向けのレンタル事業。SNSを活用した宣伝、役場でレンタル ②古着のリメイクで資源の有効活用、収入を得る ③当日予約、気楽に預けることができる、時間制限なしの託児所設置
産業グループ1 (5名)	
<ul style="list-style-type: none"> ①地域の人同士の交流のため、いつでも気軽に立ち寄れて関われる場所が必要。空き家の放置も問題 ②国道沿いの村の一等地を活用しないのはもったいない。お店を開くための物件に活用できるのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ①空き家を利用した地域の人のふれあいの場所・自習室。気楽に立ち寄れて、軽食や体験や話ができる。送迎は村民バスに申し込みれば回ってくれる ②旧ショッピングひさわ跡地を複合施設として利用。飲食店など開業と持続のためのサポートや、イベント、住民参加、ボランティア活動の提案
産業グループ2 コスモスの湯活性化 (5名)	
<ul style="list-style-type: none"> ①村外から来たお客さんがまた来たいと思ってもらいたい ②コスモスの湯に関する商品を作りたい ③村内利用者を増やす、家族で来てもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ①季節のお花を飾り、お花が楽しめる温泉にする ②入浴剤の制作販売。コスモスの形でピンク色 ③イベント風呂。母の日など記念日にヒノキの板に感謝やメッセージを書く
交通・通信グループ (6名)	
現状は、買い物は村外、人口減少、少子高齢化、村内外の交流が少ないが、未来はリニア残土の埋め立てや三遠南信の開通がある。今後さらに人を呼び込む準備が必要。下條村がさらに自立している、活気がある村になってほしい	<ul style="list-style-type: none"> ①ランドマークの建設。人を引き寄せるような大きなオブジェを建設。歌舞伎役者とそばと親田辛味大根をイメージ。移住で人口を増やしたい ②下條村バスツアー・停留所。下條村～南信州をめぐる。体験ツアーも ③スーパーの建設。村の自立と人を呼び込むためにはスーパーが必要不可欠
自然環境グループ (7名)	
大きな地震が起こるとされている。下條村は地震と同時に土砂災害が起こる可能性があり、村民に自分の身を守る知識を身に付けてもらいたい	<ul style="list-style-type: none"> ①学校周辺のハザードマップ制作。危険な場所と理由を示す ②側溝掃除のボランティア。地区の人と協力し災害予防の持続的な活動に ③防災フェス。小学校で開催。楽しみながら学べる、定期的に行う ④チラシ「命を守るための確認事項」「チェックリスト」を配布、説明。家に持ち帰り家族と話し合ってもらう

道の駅そばの城「新そばをたべまい会」

年の瀬の楽しみでもありますが、毎年恒例の「新そばをたべまい会」が12月15日、道の駅「そばの城」で開催されました。2階の食堂へは生産者をはじめ120名余の関係者が集まり、朝打ち立てのそばの風味を感じつつ、今年の村産そばを堪能しました。本日のメニューは親田辛味大根を薬味に添え、村産のそば粉を使用したおろしそばと「そばの城」オリジナルの蕎麦すいとんです。そばは七割そばと喉ごしもいので、二枚三枚とおかわりをする人も多くいました。一枚150g、私も二枚頂きました。



そばがどれくらい美味しいか、味わつてもraithたい。辛味大根とのセットは他にはない。下條村のそばをほとんど外へ拡げてほしい」そばは全国的に不作だったようだが、下條村では例年に近い20t弱の収穫量

があつたそうです。現在下條村のそば畑は約30ヘクタール、生産者およそ60人で支えています。これからも「そばの城」で毎年、村産の美味しいそばを味わえたら嬉しいと思います。(熊谷 美和子)

商工懇談会開催



令和6年度商工懇談会(11月29日)が新井商工会長をはじめ各理事、支援委員出席のもと開催されました。令和6年度の商工会事業の実施状況、令和7年度商工会事業の取り組み方針及び具体的事業内容、令和7年度商工会事業に対する村補助

稼、浄化槽修理費補助、Wi-Fiサービスの向上、村特産物利用促進、リフォーム・空き家対策補助、荒廃農地宅地転用、南信州地域ぐるみでの連携対策、等活発な意見交換が交わされました。

活性化事業(特産品開発事業)、新規学卒者等雇用拡大のための村内企業の認知度向上支援、観光地域づくりの促進、物価高騰に関する経済対策支援の拡充、等含む20項目を陳情事項として下條村金田村長、下條村議会串原議長に提出されました。下條村村長より、『村としても諸課題の対策、他項目支援策を令和7年度の重点課題として下條村商工会を中心に元気な村、いきいきとした村づくりにな

金の要望事項について報告があり、また商工業者の諸課題と支援策について商工部会、工業部会、青年部、女性部、商業部と各部会長、部長、幹事より物価高騰、燃料費高騰、労働者不足、商工業品価格転

お一層商工会会員皆様のお協力いただきたいとの挨拶をいただき閉幕しました。商工会会員様のますますのご活躍と下條村発展に御尽力を賜りますようお願い申し上げます。(熊谷 利治)

変わりゆく火沢地区



火沢地区におけるリニア中央新幹線トンネル掘削発生土埋立て工事が8月より着手となりました。現在は村道1号と火沢川の交差する付近をヤードとして下流側の樹木の伐採、河川の軟弱地盤の剥ぎ取りと並行し径1mほどもある地下排水菅が設置されつつあります。埋め立て予定地の末端は擁壁や地下排水を貯める為の沈砂池が作られますがそこへ到達す



る為の仮設道路工事も進行しています。目視はできませんが大雨時や工事中に出る濁り水対策として仮設沈砂池

も作られています。阿知原入口から村道1号を入ると露わになった火沢川と工事の様子が見られます。大型ダンプの通行も始まりましたが住民への安全配慮はしっかりとやっていると感じます。盛り土工完了は数年以上かかると思われていますが、先ずは安全第一で進めていただきたいと思えます。

(田中 兼次)

下條村戦没者・公務殉職者追悼式に参加して

令和6年度下條村戦没者・公務殉職者追悼式が11月25日コスモホールで遺族会員の方々、来賓あわせ53名の出席で挙行されました。式典は出席者全員で慰霊碑の方へ向かい黙祷を捧げ全国戦没者慰霊の歌を唱和しました。式辞は

軍医(佐久市)の指示で多くの隊員の命が守られた事をご講演いただきました。今も世界のあちこちで戦争の悲惨な様子が毎日のよう

に報道され先行きが大変憂慮されます。紛争が一刻も早く解決され平和な世界になる事を願わずにはいられません。(田中 兼次)

金田村長、串原議長による追悼の言葉、謝辞は齋藤俊二遺族会代表より述べられました。最後に戦没者・公務殉職者へ哀悼の意を込めた献花を行いました。また遺族会の牧島光彦様(鎮西)より長野県戦没者遺族大会へ参加された事、特に沖縄戦で負傷者を手当て看護の為に編成された女学生「ふじ学徒隊」が小池勇助





下伊那南部地区議員会による 国交省、財務省への要望活動



国土交通省への要望活動

下伊那南部地区議員会（下條村・阿南町・泰阜村・天龍村・売木村）の議長は、11月12日に埼玉県の国交省関

た。化、高齢化を克服し豊かな地域を形成するために早期実現を進めるよう陳情を行いました。

東地方整備局への要望活動を行いました。要望内容は、南部地区5町村からあげられた「①国道418号の整備促進」「②リニア中央新幹線長野県駅へのアクセス道路国道151号の下條村白又橋の整備促進」についての要望書を道路部長に渡し、過疎

翌日の11月13日には、国交省・財務省の政務次官・各部局室を回り、道路の整備促進と地域公共交通確保維持改善事業の恒久的な存続のための充分な予算確保についての要望

第68回町村議会議長全国大会

11月13日午後から、東京NHKホールで第68回町村議会議長全国大会が開催されました。

全国の町村数は、町が743、村が183の計926町村があり、全国各地から町村議長が参加し大会が行われました。大会に来賓として出席した石破茂内閣総理大臣は、祝辞の中で「地域住民の方の声に一番近く、地方の課題や問題点がわ

第68回町村議会議長全国大会



祝辞を述べる石破総理

を行いました。今後とも南部地区議員会として、5町村からあげられた要望事項の実現のために、粘り強く提言活動を進めて行く必要があります。

その地方が持てる力を最大限に引き出し、もう一度新しい日本をつくっていききたい。政府として町村議会の皆様方と一体となって、何とかこの国を次の時代につなげるために精一杯努力をいたしてまいります。」と挨拶をされました。

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は元日の石川県能登半島地震、台風や豪雨災害による各地の被害や気象庁観測史上初の記録的猛暑により、農作物等に影響がありました。8月には南海トラフ地震臨時情報が発表、また、日本の主食である米不足が問題となりました。秋には衆議院が解散され、選挙により自民、公明両党の与党半数割れの結果となりました。アメリカではトランプ元大統領が当選し、今後の世界の動きが気になると同時に日本への影響が心配です。今年には災害等なく穏やかな、年を願いながら、下條村議会としても村民の皆さんがより良い生活を送る事が出来るよう活動してまいりたいと思います。今年もよろしくお願い致します。（竹村宗次）

編集委員会

- 委員長 竹村 宗次
- 副委員長 丸山 浩子
- 委員 田中 兼次
- 委員 熊谷 利治
- 委員 熊谷 美和子
- 委員 宮嶋 成子